

資源循環型の農畜産業と食育で地域貢献

アニマルウェルフェア

資源循環

食育

有限会社 NOUDA

代表者：代表取締役社長 納田 明豊
所在地：徳島県阿波市吉野町西条字西姥御前98-1
設立：平成15年1月8日
従業員数：7名(役員含む)
事業内容：養豚、金時豚の加工・販売

○事業・活動の概要

有限会社NOUDAでは、資源循環型の農業と畜産を組み合わせた経営に取り組んでいる。業界では珍しい豚の飼育から加工、販売までを一貫して行っており、8年前には「阿波の金時豚」をブランド化した。

また、生産者から本来廃棄する規格外のさつまいもを引き取り、豚の飼料にしたり、豚糞を利用した循環型農業で野菜栽培も行っている。

さらに、小学校で出前授業を行うなど、地域の子供たちに対する食農教育にも取り組んでいる。

○資源循環型の農業及び畜産

同社では、規格外で出荷できず、これまで廃棄していた徳島県のブランドさつまいも「鳴門金時」を生産者から引き取り、そのまま飼料として豚に与えている。この芋を食べた豚は肉の赤みが増し、よりおいしくなっただけでなく、堅い芋をそのまま与えると、よく噛んで食べるので、ほかの豚の尾をかじるというストレス行動が減ったという。この取組は、芋の生産者にとっても、せっかく作った作物を廃棄することなく、有効利用してもらえること、また、穴を掘って埋めるという大変手間がかかる廃棄作業が軽減されるなど、両者にとってメリットがある。

また、豚一頭当たりのスペースを一般的な豚舎より広く取り、豚が落ち着いた空間で過ごせるように工夫するなど、アニマルウェルフェアの観点からも豚のストレス軽減にこだわっている。

同社では、子豚の頃から抗生物質などは一切使用しない飼料を与え、安心安全な飼育を行っている。さらに、良質で甘みのある肉質となるように、通常は180日程度のところ、200日以上という長い飼育期間を取り、ゆっくりと大切に育てている。こうして育てた豚を自分たちで捌き、肉の品質をその都度確認するなど、年間出荷数約1,500頭の小規模農家だからこそ、手を掛け、品質の安定や差別化に取り組んでいる。

ほかにも豚糞を利用した堆肥を使う循環型農業で野菜栽培も行っている。地元の農家に提供する際は、生産者の要望に沿った堆肥を作っている。繊維質な堆肥にするために、使うのは地元で栽培されている藍染めの原料となる藍である。藍染めに使われるのは葉の部分で、茎は使用しない。その茎を豚糞に加え、発酵させてできた堆肥は藍の栽培にも使用されるなど、循環の仕組みが整っている。

○子供たちに対する食農教育

同社では、子供たちの笑顔が地域活性化につながると考えており、様々な体験ができる機会を提供している。地元の上板町立高志小学校の子供たちに農場に来てもらい、子豚との触れ合いを通じて、命の尊さや食べ物の大切さを教えたり、子供たちに本物を見せたいと東京のフレンチシェフが調理するライブキッチンを行っている。さらに同校では、同社が作った堆肥を使用して藍を栽培し、藍染め体験も行っている。



○今後の課題

今後は、豚舎の様子をライブで確認したり、サーモグラフィを活用して豚の健康状態をスマートフォンで管理するなど、IT企業と連携したスマートアグリの実現を目指していく。こうした取組により、課題となっている人材不足を補い、畜産業界の働き方改革、畜産に従事する人々の待遇を良くし、持続可能な農畜産業の振興と地域の発展につなげていきたいと考えている。

公表日：令和元年10月23日 取材：令和元年8月
外部リンク：<http://www.agurigarden.com/>